

4.26 政府・東電交渉

安倍政権・東電の福島切捨てを許さない

4月26日は、チェルノブイリ原発事故が発生した日でもあり、福島原発事故以降毎年、政府・東電交渉を行ってきた日でもある。9回目となる4.26交渉でも、福島切捨てを進める安倍政権に対し、福島からの参加者130名の怒りが爆発した。



雨の中 官邸前怒りのコール

当日は朝から小雨が降っていたが、官邸前行動では雨もあがり、参加者全員の怒りのコールや合唱が行われた。

現地からの報告では前会長の亀田俊英さんから、「南相馬市の高速道路拡幅工事に放射能汚染土の再利用計画が計画されているが、住民の運動により進んでいない。放射能汚染土は約束通り、中間貯蔵施設へ持ち込むこと！」と発言された。原発をなくす全国連絡会から全労連の小田川義和さん、日本共産党参議院の岩淵友議員、紙智子議員から連帯の挨拶をいただいた。

損害賠償金を打ち切り、 原発再稼働へ支援

東電は電力調達のため、日本原子力発電（原発）が再稼働を目指す東海第二原発（茨城県）の安全対策工事に1900億円を支援することを検討している。また、原発建設予定の青森県東通村へ「企業版ふるさと納税」2億円が決定している。一方で福島県内の商工業の2倍一括賠償を超過する賠償は、900件の請求に対し合意に至ったのは僅か10件となっていることに交渉が集中した。

農民連「県内では賠償が切られて商工業の倒産が相次いでいるのに、他の原発再稼働に1900億円も出すなど許せない。国（経産省）は東電を生かしておいて、被災者を切り捨てるとは何事か。ふるさと納税で貢献するなら福島県にしろ」

経産省「東電は福島への賠償と廃炉への責任を果たすことが最重要であり、ふるさと納税は、東電の個別の経営判断として、原発立地へ地域貢献として支払うと認識している」などと他人事のような答弁を繰り返した。

農民連「経産省は超過賠償の請求書を見て指導しているのか」

経産省「個人情報もあり個別には見ていないが、丁寧に東電を指導していく」

農民連「個別の問題を把握しないでどうやって指導できるのか。経産省は被災者の苦しさを分かっているのか。一つ一つの請求書を把握して東電を指導しろ」

安倍首相「経産省から

しっかりと指導させたい」

放射能汚染・無用な被曝による精神的苦痛への損害賠償を求めた集団申し立てが県内各地で組織され、紛争解決センター（ADR）に救済を求めている。ADRから和解勧告案が出されたが、東電の相次ぐ「受諾拒否」により打ち切れ、約2万人が救済されず、政府への批判が高まっていた。安倍首相は、2月25日の衆院予算委員会で「東電は和解案の尊重を自ら表明しており、誠実に対応することは当然の責務だ。経済産業省からしっかりと指導させたい」と答弁していた。参加者の誰もがこの「指導」により救済がすすむと期待していた。しかし、交渉で明らかにしたものは、受諾拒否された申立人に個別に手紙を送り、まだ請求するのであれば個別にどうぞというものだった。

農民連「同じ地域の集団ADRの申し立てで、和解案が出ているのに、この地区は賠償が出て、こっちは出ないと地域住民を対立させ分断している。早期救済するために国が作った中立機関がADRだったはずだ。これでだめならどうすれば救済されるのか。既に亡くなった方も出ているんだぞ」

経産省「ADRの仲介と和解案だとしても全てを受諾できるとは限らないと理解している」。

農民連「安倍首相が和解案を尊重しろと言っているんだから、打ち切られた和解案をADRに戻して、東電に受けさせるよう指導するのが経産省の仕事だろう。（菅直人元首相）ここで決められないなら持ち帰って検討し、文書で回答するくらい当たり前だ」

放射能汚染土は約束通り 中間貯蔵施設へ

除染で集められた「放射能汚染土」は地域ごとに仮置き場に保管され、原発周辺に作られている中間貯蔵施設へ運び込み、30年間保管しその後県外の最終処分場に搬出することが決まっている。環境省は少しでも搬出量を減らすために、堤防や高速道路の盛土、アスファルトの下路床材など再生利用（最終処分地）を事故直後から検討していた。昨年二本松市で実証実験を予定していたが、市民の反対運動で中止になっている。南相馬市でも高速道路の拡幅工事使用の計画があるが、地域住民の反対で進んでいない。

放射能汚染土利用計画を検討した政府の会議において、環境省の担当者はいくつも言い放っている。「自分のところに（汚染土が）来た時に、日本のため、お国のために我慢しろと言えないといけない」。（「除染と国家」より）

交渉を通じて官僚達から発せられる言葉は、被災者を見て見ぬふりをして苦しみ、加害者の東電を擁護するものばかりである。彼らは安倍首相の「福島切捨て政策」を徹頭徹尾体現している。福島県の真の復興のためには安倍政権の打倒と、現場での闘いを続けること以外にないことを多くの参加者と確認した。

農民連フラッシュ flash

消費税、いま上げるべきではない！

4月7日、郡山駅前「10月からの消費税10%は中止を！集会＆パレード」が行われ、県内から330人が参加しました。県内では原発事故被害の深刻な状況が続き、国内でも景気の低迷が続く中、消費税を増税することへの不安が広がっています。消費税増税反対の声を大きくすること、参議院選挙で審判を下すことを集会アピールで読み上げ、市内を元気にパレードし、市民にアピールしました。



学んで進む青年部へ！

3月29日、須賀川農民連青年部第3回総会が開催。総会后、部員が講師となりネオニコチノイド系農薬についての勉強会が行われ、「勉強会をこまめに開いて資料をつくり、新たに仲間になった人も学べるようにしていきたい」と講師から提案が出されました。



NOTE 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介

若い農業者のつみやきのーと せいねんぶ農人

この時期は、県北地区の果樹園で行われている定例土壌放射能測定で外を歩き回っています。農作業の忙しい時期ですが、それと同時に様々な花たちが咲き誇っています。自然の魅力をたっぷり取り込ませてもらっています。（尾形）

